第1回　子吉川「大規模氾濫時の減災対策協議会」委員意見と対応

議事項目	発言者	意見	対応
子吉川「大規模氾濫時の減災対策協議会（仮称）」の設立			
	秋田県 由利地域振興局 建設部長	「住民目線のソフト対策」の策定については行政関係者だけでなく、住民目線の意見を言える方がいた方が良いのではないか。	自主防災組織を中心に聞取調査を実施し、取組方針に反映する。 ［資料－1］［資料－3］
	秋田県　総務部 危機管理監	「減災のための目標」を設定することが本協議会の目的なのであれば、規約に記載するべきである。	規約　第5条　協議会の実施事項に「減災のための目標を設定する」旨を追加。［資料－1］
子吉川「大規模氾濫時の減災対策協議会（仮称）」の設立			
	秋田県　総務部 危機管理監	「目標」（案）の中のキーワード「守りきる」は「住民を守りきる」という意味で使われていると思うが、行政の視点だけの印象がある。 「住民目線」をタイトルとして打ち出すのであれば、地域の自主防災組織等の取組の「自らの命は自らで守る」といったような点を念頭に置いて、幹事会や住民との意見交換の場において議論を進めていただきたい。	「減災のための目標」に文言追加。 ［資料－1］
	秋田地方気象台長	子吉川は急激な水位上昇により、迅速な行動が求められることから、「目標」の「住民が自ら避難行動」することが非常に重要。この部分をもう少し大きな柱にした方が良い。情報を受けた住民自らが迅速に行動できる形にしていくことが重要。	
		「減災のための目標」を達成するための「具体的な取組方針のイメージ」の中で「住民自ら避難行動を行うための防災教育等の啓蒙活動」と記載しているが、イメージ的に「啓蒙」よりは「啓発」といった言葉の方が良い。	「取組方針」に反映。 ［資料－3］
「取組方針」（案）策定の進め方			
	秋田県 由利地域振興局 建設部長	「取組方針」策定においては、「住民目線」として、一方的な情報提供とならないように、受け取る側が情報を得た際に安心・安全に避難が出来るよう、安心感を持ったソフト対策が狙いと考えている。	「取組方針」に反映。 ［資料－3］
	由利本荘市長	洪水が発生した場合に沿川住民がいかに行動すべきかを実践的・具体的に伝えることが大事である。	
	秋田地方気象台長	洪水の際に住民自らがどういう行動をとるべきか、住民に対する教育等を重点的に進めていただきたい。	
	秋田県 由利地域振興局 建設部長	「取組方針」策定目標時期があると思うが、出来るだけじっくり色々な意見を聞きながら、時間的な余裕を持った形で検討していただきたい。	